

いつでも、だれでも、安心して過ごせる校内別室

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生。不安が強く、入学時から校内別室を利用している。一日の全てを在籍学級で過ごすのは体力的に厳しいため、校内別室指導支援員に相談し、精神的なバランスを図っている。校外学習には参加することができた。

具体的な取組

○自然と触れ合う活動（火曜日）

地域教育コーディネーターが指導し、豊かな自然を利用し、中庭や玉川上水を散歩したり、草花の種を蒔き、世話をし、育てたりした。獲れた苺や梅を使ってジャム作りにも取り組んだ。心が落ち着き、表情が穏やかになった。



○コミュニケーションの活動（水曜日）

コミュニケーション能力を高めるため、カードやボードゲームによる SST ゲームに取り組んだ。最も人気があり参加人数が多い。特別支援教室の教員が指導するが、複数の教員が参加することもある。楽しみながら会話がはずんだ。



○心と体を楽にする（金曜日）

動画を見ながらストレッチ体操を行い心と体をほぐした。月 1 回は、作業療法士の指導によりセラピーを行った。心と体のバランスを取るためにリラクゼーションや考え方が楽になる方法を楽しく学ぶことができた。



○学び直し（月・金曜日：算数・数学） （火・木曜日：英語）

学習補助員が指導し、算数・数学は自分の習熟度に応じたドリルを選択して問題に取り組み、分からないところを教えてもらいながら基礎学力を身に付けた。英語は英文の絵本を読んだ。



成果

校内別室がスタートした頃は、ほとんどの時間（3～6 校時）を自習に当てていたが、今年度から多様な学び（プログラム）を取り入れたことにより、生徒の意欲が高まり、活動が充実した。

全く登校できなかった生徒が登校した。

課題

在籍学級への復帰に向けて、スモールステップでの目標を設定し、学級での生徒との関係づくりを設定する。

個別のニーズに対応した柔軟性ある別室登校による支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の 3 学期から登校日数が減ってきて、中学校 2 年生になるとほとんど在籍学級へ入ることができなくなった生徒である。集団生活や他者との人間関係の構築につまずきが見られる。

具体的な取組

○日誌から生徒の心情の変化を把握

校内別室指導支援員が 2 人在籍しているため、当該生徒の心身の変化を把握し、日誌を活用して文章で引き継ぎをしている。また、その日誌に書いてある内容を担任と共有し、次のアプローチの方法などを学年会で検討し、小さな変化にも気づき、素早い対応ができた。

○校内別室の環境整備

各学級の雰囲気となるべく差がないよう、掲示物や視覚的支援に配慮した校内別室を整備した。生徒の実態に合わせ、無理のないペースで学習できるように複数の学習場所を選択できるようにして、自己決定させる場面を増やすことができた。



○短期的な目標設定のための面談

校内別室を利用する際に、担任と不登校対応加配教員、当該生徒の三者で簡単な面談を行うシステムを構築した。当該生徒の目指す短期的な目標を明確にし、その目標達成に向けたプロセスを共有した。面談後に、校内別室指導支援員への円滑な接続ができた。

○学年や各教科担当との連携

総合的な学習の時間や各教科などで、在籍学級には入れないが学びたいという意思があった場合、同様の教材を使用し別室で取り組むことができるようになった。事前に、日誌などで担任と共有したことによって、円滑な流れで学習させることができた。

成果

今年度、開設した校内別室の利用手順や生徒対応の方向性について、年度当初に明確にした上で校内別室指導支援員と連携することができ、運営がスムーズにできた。また、在籍学級の友達が別室に来て、一緒に学習することもできた。

課題

自分の苦手な学習と向き合う習慣を身に付けられるよう、徐々に活動内容や交流の範囲を拡充していく。

校内別室指導員の組織的な活用について

不登校生徒の状況

不登校生徒及び不登校傾向の生徒は、全校生徒の約 6 パーセントであり、校内別室を利用して登校できている生徒は、一日最大で 7 人である。校内別室指導員が、生徒の実態に応じて、登校時間や給食の喫食の有無など様々な状況に対応し、教員と連携を図り柔軟に対応している。

具体的な取組

○校内特別支援委員会との連携

毎週 1 回実施している校内特別支援委員会で、不登校生徒の支援について協議している。校内別室登校を促すなどの方向性の確認や、現在校内別室指導を受けている生徒の近況など、校内別室指導支援員からの情報を共有し、支援方針の検討を行っている。

○学校行事への対応

学校行事の日に、校内別室指導に登校する生徒が、短時間でも見学や参加ができるように対応している。校内別室指導員と一緒に別の場所から見学をしたいという生徒の気持ちに寄り添うことで、見学から行事参加につながった生徒がいる。

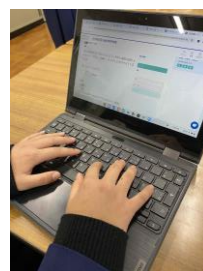
○SC、SSWとのつながり

SCやSSWが関わっている校内別室指導の生徒が複数名在籍している。登校が難しかった生徒も週 1 回のSCのカウンセリング後に別室登校を促し、継続的につながったケースがあった。SSWと一緒に校内別室に登校できるようになった生徒もいる。



○学習アプリの活用

校内別室指導に登校している生徒の中には、学習の遅れや自分でどのような勉強をしたらよいか分からない生徒もいる。そこで学習者用端末にある学習アプリを活用し、自分のレベルに合った内容の学習に取り組めるようにしている。



成果

生徒自身が教室に行く時間、別室で過ごす時間を自分で選択することで、教室復帰ができたことがあった。それまで登校できなかったが、別室を足掛かりに登校できるようになった事例も増え、学校として別室の存在意義が明確になった。

課題

登校することが精いっぱいの子供もいる中で、どこまで学習を促せばいいのかなど、個々への対応の難しさがある。